



★ 大光寺だより ★
★ かがやき ★

発行 寂静山 大光寺
住職 藤範雅史

本堂のお飾り (平成31年正月)

御供物新調

今回大光寺では、お供物の一つである落雁を新しくしました。

お供物は仏さまを御敬いするにあたって、大切なお飾りの一つです。

皆様はご家庭のお仏壇に

えしていただけますか？お酒やタバコ等、故人が好んでいたものをお供えしているお仏壇を見かけることがあります、実はコレ、良くありません。

仏さまへのお供え物の基本は、餅・菓子・果物となります。

ご自宅でお正月を迎える時や仏事・法事を勤める時のお供え物は、まず餅・菓子・果物です。では、それ以外のものはお供えしてはいけないのかというと、そうではあります。自宅で法事を勤めると、親せきや故人と仲の良かった友人等が様々なものをお供えとして持ってきてくださるでしょう。そういったものは遠慮なくお供えさせていただきます。

注意点は供えっぱなしにしないこと。コトが済んだらきちんとお下げして、綺麗に平時のお飾りに戻しましょう。

法要以外でも、いただきものがあつたときは、まず阿彌陀如来様にお供えして、お下がりとして頂戴するなど、日ごろから仏さまを中心とする生活をこころがけたいものです。

それとお供え物で皆様から多くご質問をいただくのが「御仏飯」です。

いつお供えして、いつ下げればいいのか？というご質問をよくいただきますので、少し触れておきます。基本的には午前中、朝一番に炊き上がったご飯をお供えし、お昼前にお下げするというのが基本ですが、今、朝にご飯を食べるとい習慣が少なくなっ



てきています。ですので、昼でも夜でも、ご飯が炊きあがったら仏さまにお供えし、合掌・お念仏を申させていたいたらずにお下げして、必ず自分達で召し上がるようにしてください。カピカピになるまで供えっぱなしにして後は捨てるなんていうのは論外です。ご飯をいただける喜びを仏さまに感謝してありがたくいただきます。

教へて住職!

法名とは

法

名とは、仏法に帰依し、お釈迦さま

の弟子となった者の名前です。本山（本願寺）で

帰敬式（おかみそり）を

受式されますと、ご門主さまから「釋○○」という法名をいただきます。

法名はすべて2字とし、

お釈迦さま（釋尊）の「

字をいただいた「釋」の

字を上冠します。念仏

者として信に生きる者の

名前ですから、できるだ

け生きていく時にいた

きましよう。

帰敬式を受式していな

法名って何ですか？院号って何ですか？

法名と戒名って同じものですか？

亡くなってから付けていただくものですか？

い方が亡くなった場合は、

ご門主さまに代わって住

職よりいただくことがで

きます。

浄土真宗では法名とい

い、戒名とはいいません。

戒名とは、受戒して厳格

な戒律を守って修行する

人びとにつけられる名で

す。戒律の1つも守るこ

とのできないこの私たち

を必ず救い、浄土へ迎え

るといふ阿弥陀さまのは

たらきを「法」と呼びま

す。ありのままの生活の

中で「法」を聞き開き、

その中に生きるのです。

また、法名には「信士・

信女・居士・大姉」等の

修行生活の形態をあらわ

す位号はつけません。

法名 釋 大光

親

鸞聖人は、信心の

老少をいはず」と示され

てあります。どうして女

性にだけわざわざ「尼」を

付けて、女性であること

を示さねばならないので

しょうか。

ご本山では、一九八六

（昭和六十一）年から、法

名は男性も女性も「釈○

○」に統一されています。

女性や男性という「性」

「人間」として、共に生き

ることが大切ではないで

しょうか。法名も同じこ

とです。

浄土真宗本願寺派本願

寺（西本願寺）での帰敬

式受式冥加金は、成人一

万円、未成年五千円です。

法名の内願（希望する法

名をいただく）をご希望

の場合は、別途一万円以

上の内願法名懇志をご進

納ください。

法名の内願につきまして

は、住職からの申請が
要となりますので、お問
い合わせください。

院号とは

院

号とは、「院」を
最後に付ける称号
です。「院」とは「垣根

をめぐらせた大きな建物」
を指す言葉で、もともと
は天皇の退位後の住まい
の呼び名でした。平安時
代初期に嵯峨天皇が譲位
し上皇となって出家した
後、嵯峨院という寺院を
造営し移り住み、自ら

「嵯峨院」と称するよう
になります。その後、

各宗派で戒名や法名の上
に院号を冠して用いるこ

とが一般化していきまし
た。本願寺では、蓮如上

人が「信証院」と称され
たことに始まるとされて

います。

現在では、宗門の護持

発展に貢献された方、ま

たは、宗門もしくは社会

に対する功労が顕著であ

ると認められた方に「○

院」という院号が宗門

教 楽 院 釋 大 光

より授与されます。

現在は永代経懇志（お金

による布施、寄付）など

をされた方に、お扱い

（お礼の品）のひとつと

して、希望者に院号が下

付されております。

本願寺では、二〇万円以

上の懇志をされた方に対

し、金額に応じてお礼の

記念品を数種用意してい

ますが、そのひとつが



「院号」です。

つまり、浄土真宗の「法
名」や「院号」は、お金
で買うものではないので
す。

永代経懇志とは、み教

えが永代経対象者（故人

または懇志進納者本人等

をご縁に、本願寺、大谷

本廟において伝えられて

いくことを願うことから、

ご進納いただく懇志であ

ります。末永い門宗の発

展を願って納めるもので

あつて、故人への供養と

か法名をグレードアップ

させる為のものではありません。

法名の上に載せ

られるために、法名と院

号は、「一体化」してい

るように思われています

が、このように法名と院
号はまったく「別物」で
す。

一般寺院・僧侶が院号を

付与することはできませ

ん。院号を内願する場合

も、宗門へ申請し、宗門

より授与いただきます。

永代経懇志につきまして

は、所定の申請手続きが

必要となりますので、お

問い合わせください。

当寺院では、院号にかか

る費用はいただいております。

懇志は全て宗派

（浄土真宗本願寺派）ま

たは本山（本願寺）にご

進納させていただきます。

浄土真宗の教章(私の歩む道)

宗名 浄土真宗

宗祖 親鸞聖人

(開山)

ご誕生 一一七三年五月二十一日

(承安三年四月一日)

ご往生 一二六三年一月十六日

(弘長二年十一月二十八日)

浄土真宗本願寺派

龍谷山本願寺(西本願寺)

阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

聖典

・釈迦如来が説かれた『浄土三部経』

・『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』

・『仏説阿弥陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

・『正信念仏偈』(『教行信証』行巻末の偈文)

・『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

・『御文章』

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

生活

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによつて、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

浄土真宗の教章とは「家訓」や「社是」のように念仏者の姿勢、価値観を示したものです。

特に(私の歩む道)と但し書きされているように、組織としての理想像ではなく、私たち自身の人生の指針と受け止めてください。阿弥陀さまのぬくもりの中、孤独や不安を乗り越えて、他者・社会との関わり合いの中で心豊かな人生、自利・利他円満な日々を送ってまいりましょう。

合掌

今月も私の友人である、北海道の名和先生から仏さまのお話を寄稿いただきました。



戦地からの便り

3年前の12月、布教の為に岩手県に行った折に、生涯忘れ得ぬ出来事に恵まれました。それは北上市にお住まいのTさんとの出会いであります。

Tさんは当時88歳男性、私とは全く面識の無い方でありました。私がおの方のことを知ったのは、北上を訪問する数ヶ月前、私宛に送られてきたTさんからの便箋5枚もの手紙によってでした。それによって驚きの事実を知らされたのです。

手紙には、70数年前に太

平洋戦争でお亡くなりになったTさんのお兄様のことか記されていました。九つ違いの兄弟は、幼き頃より教会館によくお参りされていたそうです。やがて戦争が始まり、お兄様の元に召集令状が届きます。最初は北海道の旭川歩兵第二十七連隊に入隊、直ちに満州の部隊に配属されました。年間、ソ連(現ロシア)との国境警備に当たられた後に、南洋のメレヨン島へ。

地図で確認するのも難しいくらい小さな島で防衛に努められました。食料、医薬品などの補給もなく、極度の栄養失調により、お兄様は亡くなっていかれたのだそうです。

しかし続く内容に私の目は釘付けになりました。お兄様の満州当時の戦友に「名和」という名の北海道出身の浄土真宗のお坊さんがいたことが記されていたのです。確認したところ、その人物が私の大叔父(祖父の弟)であることが判明、

更にはメレヨン島で最後まで同じ部隊に所属し、亡くなった時期も二ヶ月しか違わなかったことまでわかったのです。

いただいたお手紙を手に私は雪降る北上市に向かいました。Tさんは、お兄様の戦友が私の大叔父であったことを確認するなり、私の手をぎゅっと握りしめ、涙を流されていました。

「満州にいた頃、兄は名和さんから親しく親鸞聖人のみ教えを聞かせていただき、お互いご法義について語り合えるよろこびを便りに知らせてきました。その記憶が未だに残っています」と、

私たち家族でさえも知らなかった戦地での大叔父の姿を知らされることとなりました。「兄から家族それぞれ宛てられ



た軍事郵便には、いずれにも『よく聴聞するように』と記されていきました。以来、北上の地でご法座に足を運び続けること七十数年、私は兄の言葉に導かれ、兄のお陰で阿弥陀様のお慈悲のお心を聞かせて頂くことができました。有難い人生でありました。との言葉に、私は深い感銘を覚えたのでありました。

安楽浄土にいたるひと
五濁悪世にかへりては
釈迦牟尼仏のごとくにて
利益衆生はきはもなし

『浄土和讃』

阿弥陀様のはたらきによって浄土で仏となった方は、大いなる慈悲の心をおこして、迷いのなかで苦しむ人々を導き救いたる自在にはたらし続けるのである、と

のご和讃が、Tさんのお言葉と重なります。お浄土に生まれていったお兄様。そのお兄様のお導きを、Tさんの数十年に渡るお聴聞の歩みの上に深く味わわせていただきました。と同時に、深い悲しみを背負いながらも「有難い人生」と言い切られるTさんのお姿に、み教えに生かされる力強さを教えていただく縁ともなったのです。

お兄様にいざなわれ、Tさんが歩まれた道、それは私たちにも開かれている浄土への道です。先人達の導きや、多くのご縁により出遇うことができたこの道は、私たちもまた、浄土に生まれ仏となり、迷いの中で苦しむものを救いたいとはたらき続けていくこととなる尊い道です。そのことを慶びつつ、来たる年もお念仏とともに日々を歩ませていただきますように。

令和2年度(令和2年4月～令和3年3月) 法要予定表

月	法要	大光寺	教楽寺
4月			仏婦例会
5月	宗祖降誕会	24日 午後2時～	24日 午前10時～
6月			
7月			仏婦例会
8月	盂蘭盆会	14日 午後3時～	
9月	秋季彼岸会	20日 午前10時～	20日 午後2時～
10月	宗祖報恩講	25日 午前10時～	25日 午後2時～
11月			仏婦例会
12月	除夜会	31日 午後2時55分	
1月	元旦会	1日 午前11時～	
2月			仏婦例会
3月	春季彼岸会	20日 午前10時～	20日 午後2時～

予定は変更になることがあります。必ずお寺の掲示板でご確認ください。

どなたでもお参りできます。お誘いあわせの上ご参拝ください。

令和二年 年回忌表

回忌 逝去年

- 一周忌・・・平成三十一年・令和元年
- 三回忌・・・平成三十年
- 七回忌・・・平成二十六年
- 十三回忌・・・平成二十年
- 十七回忌・・・平成十六年
- 二十三回忌・・・平成十年
- 二十七回忌・・・平成六年
- 三十三回忌・・・昭和六十三年
- 三十七回忌・・・昭和五十九年
- 五十回忌・・・昭和四十六年

※浄土真宗では二十五回忌をお勤めいたしますが、地域によつては二十三回忌・二十七回忌をお勤めすることがあります。高野口では後者の方が多いようですので、二十三・二十七回忌を記載しています。

↓↓故人の年回忌表、作成します

元号が新しくなって、先にお亡くなりになられた方の年回忌法要の計算がややこしくなったという声を聞くようになりました。お寺ではお亡くなりになられた方それぞれの年回忌表を作成しています。ご希望の方には作成してお渡しいたしますので、**過去帳を持って**お寺にお越しください。

年忌表

法名 じゃくじょういんしやくだいこう 寂静院釋大光

藤範 大光

平成二十九年七月二日往生

九十九歳

- 一周忌 平成三十年
- 三回忌 令和元年
- 七回忌 令和五年
- 十三回忌 令和十一年
- 十七回忌 令和十五年
- 二十三回忌 令和二十一年
- 二十七回忌 令和二十五年
- 三十三回忌 令和三十一年
- 三十七回忌 令和三十五年
- 五十回忌 令和四十八年

藤範 雅史様

和歌山県橋本市高野口町伏座1-179
寂静山 大光寺

Tel 0736-4213055

